

## モンタナ州：小麦作柄と気象状況 2004年10月12日（最終）

2004年10月10日現在

10月3日に終わる1週間の天候は良く1週間の州平均農作業稼働日数は6.8日（前週：6.4日）であった。降雨の無い秋晴れの1週間であった。2005年産冬小麦の播種は順調に進み全州の92%にて完了した。土壌水分が比較的良好であり出芽は例年より早く63%にて出芽した（昨年：26%、5年平均：39%）。2004年産硬質春小麦の収穫は天候に恵まれ98%の圃場にて完了した。略5年平均の進捗状態となった。Durum小麦は79%の収穫完了状態であった。

土壌水分：10月10日現在

Topsoil

	This week	Last week	Last year	5-yr. Ave.
Very short (%)	24	20	50	32
Short (%)	36	36	39	43
Adequate (%)	38	41	11	25
Surplus (%)	2	3	0	0

Subsoil

Very short (%)	39	40	65	46
Short (%)	34	34	29	38
Adequate (%)	26	25	6	16
Surplus (%)	1	1	0	0

小麦生育状況：10月10日現在

<i>Winter wheat</i>	This Week	Last Week	Last Year	5-year Ave.
Planted (%)	92	86	89	81
Emerged (%)	63	43	26	39
<i>HRS wheat</i>				
Harvested (%)	98	95	100	98

Source: Montana Agricultural statistics Service

2004年10月1日付け農務省発表冬小麦の生産予想：

Crop year	Area Harvested 1,000 acres		Yield Bushels/acre			Production 1,000 bushels	
	2003	2004	2003	2004		2003	2004
				July 1	Oct 1		
Winter W.	1,720	1,550	37.0	38.0	41.0	53,070	66,830
Spring W.	2,700	2,700	22.0	27.0	31.0	59,400	89,900

モンタナ州の2004年産冬小麦は、Mild winterの後、春先より適時降雨に恵まれ、栄養成長が順調に進み、その後生殖成長に入ってから急激な温度上昇等に遭遇せず、理想的な生育をした。登熟期に入った6月の気象は平年より低目の気温にて推移し、適時に降雨があった。冬小麦並びに春小麦にとって有効で

あった。春小麦は播種期の天候が不順であり、播種が遅れその後の低目の気温の為、栄養成長が遅れ結果として生殖成長が例年より1~2週間遅れていた。但し、登熟期を迎え急激な温度上昇等を受けず、澱粉蓄積には適した状態であった。

冬小麦の予想単位収量；41 ブッシェル/エーカーは過去最高の数値である。過去の最高収量は、1995年産及び1991年産冬小麦の40.0 ブッシェルであった。春小麦の予想単位収量は31 ブッシェルと発表された。この数値は1995年の35 ブッシェルに続く高単位収量である。

当該作柄と気象報告に関するご質問は下記にお願い致します。

小川正晃：<mailto:ogawa.max@omicnet.com>